

2番（近藤 敏彦君）      こんにちは。

昨日に引き続きまして、2日目の一般質問で大変お疲れのことかと思えます。今年の3月議会で初めてこの場に立たせていただくこととなり、早くも2度目の一般質問をさせていただきます。

この3カ月余りはさまざまな方々にご指導をいただき、いろんなことを勉強させていただきました。まだまだよちよち歩きではありますが、今後もさらなる勉強をして、精進を続けてまいりたいと考えていますので、どうかよろしく願いいたします。

さて通告に従いまして、最初の質問をさせていただきます。

まず最初に、選挙中より私の信条として訴えてまいりました東員第一中学校の移転についてです。

東員第一中学校の歴史を調べてみますと、開校は昭和23年でありまして、当初は神田村、稲部村、それと現在の桑名市の久米村、七和村の4村による学校組合立として始まりました。

現在の校舎は昭和37年といいますので、私が生まれる以前に建築されたものがあります。鉄筋コンクリート構造の3階建てです。16年後の昭和53年に北館が完成いたしました。平成10年に本館、北館の大規模改修工事として耐震化が図られました。

本館の完工より50年、耐震化工事から14年が過ぎようとしているのが現在の状況であります。また、開校当初は現在の桑名市の久米、七和地区との組合立であったため、立地場所が現在の東員町の東の端に近いところに建てられることになりました。その後、久米村、七和村は桑名市に合併して、4村での学校組合は解消され、東員町立となった現在では、立地場所としてはかなり偏ったところに位置することとなり、遠方より長い時間をかけての通学を余儀なくされている生徒さんたちがたくさんいらっしゃるのが現状です。

私がこれ以降申し上げますことは、新校舎を役場の近くに移転することにより、さまざまなメリットが生ずると考えたからでありまして、それらを踏まえましてのご提案を含めてのご質問でございます。

まず、教育長にお尋ねいたします。

今後、防水工事などを含めた大規模改修工事の計画はありますでしょうか。また、通学格差の是正に向けて、大胆に移転をするという計画はいかがなものでしょうか。ご答弁願います。

議長（南部 武司君）      岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君）      東員第一中学校の移転についてのご質問にお答えをいたします。

議員もご承知のとおり、東員第一中学校の校舎は、昭和37年に本館の西側一部

と昭和41年に現在の本館が、昭和53年に北館が建築されて以来、相当の年数がたっております。

14年前に耐震補強を兼ねた大規模改修を行っておりますが、躯体の状況のみならず、設備についても老朽化が進行しているため、順次修繕を行っている状況でございます。

現在のところ、大規模な改修の計画はございませんが、将来的には移転を含めた建てかえが必要であると認識をしているところでございます。

建設費用や用地買収など、相当の事業費が必要になると想定されますので、十分な議論を踏まえ、第一中学校の改築・移転については、他の小中学校の長寿命化、修理計画も含め、検討してまいりたいと思います。

よろしくご理解いただきますように、お願いをいたします。

議長（南部 武司君） 近藤敏彦議員。

2番（近藤 敏彦君） ご回答ありがとうございました。

私が提案しておりますこの移転に伴いまして、3つのメリットがあると考えております。

これから1点ずつ申し上げますので、それぞれについてご見解を伺えましたら、よろしくをお願いをいたしたいと思います。

まず1点目は、役場の近くに移転をすることにより、遠方から通学をしている生徒さんと、その親ごさんに安心感を与えるということです。通学時間が短くなることにより、交通事故や青少年をねらった犯罪から少しでもリスクを少なくすることができると思いますが、教育長、その点についてはいかがお考えでしょうか。

議長（南部 武司君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） お答えをいたします。

私もそのとおりだと思っております。

議長（南部 武司君） 近藤敏彦議員。

2番（近藤 敏彦君） 明解なお答えでした。私の意図するところを踏まえていただきまして、ありがとうございます。

2点目につきまして、本年度2学期から導入される体育の授業での武道におきまして、新たに武道場を建設することなく、役場の武道館をそのまま利用できたりすること、またプールや陸上競技場なども、既存の町の施設が使えますので、建築のコストが下げられることもメリットだと考えますが、いかがでございますか。

議長（南部 武司君） 岡野教育長。

教育長（岡野 譲治君） お答えをいたします。

武道場を使っていたりとか、体育館、それぞれの近辺にあります町の施設を使っていたりすることに対しては大変メリットがあると思います。

ただ、学校には学校の体育館とか、武道場は私どももまだ考えておりませんが、それぞれの施設は必要であるかなど。町の体育館だけを使うのではなくて、町の体育館は町民の皆さんにも使っていただくということでありますので、もし移転等になれば、体育館等は当然つくっていかねばならないなと考えております。

議長（南部 武司君） 近藤敏彦議員。

2番（近藤 敏彦君） 体育館の件についてはわかりました。

午前中の近藤治隆議員のお話の中にもありましたように、武道の必修化ということで、年間を通して6時間だとか10時間だとかという少ない時間をおっしゃられてましたけども、ただ6時間、10時間のために武道館を1つ建設するというのも非常にデメリットが多いような気がしますもので、6時間、10時間のことであれば、武道館を使っても、さほど差し支えはないとは思いますが。

その辺は一考していただければと思います。

そして今、プールの授業等はないかもわかりませんが、将来的に向けて、もし必要なことがあれば、プールも恐らく今使っていないのですから、必要性はないのかもわかりませんが、一つつくろうと思うと、かなりの費用がかかると思いますので、これも利用できれば一番いいのかなとは考えております。

メリットにつきまして、3点目なんですけども、現在の校舎があるわけでありませうけども、この校舎を壊してしまえばそれまでのことなんですけども、ここを介護施設であるとか、高齢者福祉施設、学童保育などの施設として利用するのもいいかと思えます。また、そこには診療所であるとか、小さなスーパーマーケットなどを誘致して、ある程度のことがそこで賄えるような、便利でコンパクトなコミュニティをつくるのも有効利用の一つではないかと考えます。

福祉の面や複合的な角度から見ていかがでしょうか。これはぜひ町長のほうからご意見を賜ればと思います。

よろしく申し上げます。

議長（南部 武司君） 水谷俊郎町長。

町長（水谷 俊郎君） まだ移転と決まったわけではございませんので、跡地のことについて、お話をさせていただくのがいいのかどうかわかりませんが、仮にそういうことになりましたら、今議員ご提案のことも、一つの有効なご提案ではないかなというふうなことを思います。

ただ一方で、もし移転整備ということになりますと、先ほど教育長からご答弁を申し上げましたように、かなりの費用がかかってまいります。その財源の手当てというものも考えていかねばならないというふうなことを思っておりまして、例えば跡地を整理して、売って財源に充てるということも考えられるのではないかなというふうなことを思っておりまして、その周りの状況を見ながら、議員のご提案

も検討の一つだとは思いますが、売却して財源に充てるということも考えられることだと思いますし、いろいろなことが多分考えられるんだろうと思います。

これにつきましては、まずわかっておりますことは、一中はもうかなり古くなっているから、そのところの手当てをしなければならぬ、これだけは確かな事実だと思っております。ですからそこで建てかえるのか、今言われたように移転して整備をするのか、これから教育委員会と財政、全庁的に検討をしていかなければならぬというふうなことを考えておまして、先ほども申し上げましたように、移転となればいろいろな案が出てくる、その1つとして検討をさせていただきたいというふうなことを思っております。

議長（南部 武司君） 近藤敏彦議員。

2番（近藤 敏彦君） ご回答ありがとうございます。

私も中学校時代は員弁川を越えて今の校舎まで通っておったわけですが、かなり遠方から来ている生徒さんも現実いらっしゃるわけで、ぜひとも建てかえを前提にして考えていただければなと思うんですけども、実現に際しましては、用地の確保でありますとか、当然多額の費用が発生しますので、一朝一夕にはできないと思います。将来的には町の中心部に移転することにより、通学にかかる不便さや、保護者様の不安を解消することはもとより、校舎の老朽化に伴う建てかえなどの時期を加味いたしましても、そろそろ機が熟してきたのではないかなと思われま。

これらのことを踏まえまして、ぜひ前向きな検討をしていただければ幸いです。

以上で東員中学校の移転の問題について、終わらせていただきます。

2点目の質問に移らせていただきます。

去る5月8日に、中上構造改善センターにおきまして、東洋ゴム工業桑名工場の周辺地域の住民の方々と会社側との対話集会が開催されました。出席者は住民側より中上、長深、四日市市北山地区の自治会長様ほか数名の代表者と東員町役場から数名と、四日市市役所から数名、そして東洋ゴム工業側から、工場長をはじめ、本社のコンプライアンスセンターの責任者の方、また顧問弁護士などの多くの方々が集まり、活発な意見交換がなされました。

私もその場に臨席させていただきまして、対話の内容をじっくりと聞かせていただきました。この対話集会の要旨は、工場周辺の住民の方々が生活をする上でさまざまな問題を抱えておられ、工場側に対してそれらの改善を要求するといった内容でありました。

具体的な内容といたしましては悪臭の問題であります。特に天候が悪いときや、今のような梅雨時などは顕著にあらわれるということでした。

また、県外に住居を移していらっしゃるご家族がたまに里帰りをされた際に、においに対して指摘され、普段はなれてしまっているのか、鈍感になってしまってい

るのか、外からの指摘によって改めて気づかされるといったことがあり、愕然としたという意見がありました。

工場で作っているものの一部がカーボンを使っているようでして、黒く細かい粉塵に困っているという意見もありました。これは洗濯物が黒く汚れてしまったり、夏などは夜間網戸にして寝たりすると、布団が黒く汚れてしまうなどといった問題であります。

また、騒音の問題も多々ありまして、昼間は余り気にはならないんですけども、工場は夜間も稼働しているために、高周波音やコンベアの音、フォークリフトが更新する際のアラーム音などが断続的に鳴り響いており、夏の涼しい夜などは網戸にして寝ることができないといった意見が出ていました。

近年増えつつある豪雨によって、工場付近のマンホールのふたが飛び上がることがあったり、道路や農地が冠水するなどということもあったとのこと。さらには民家に大量の雨水が流れ込み、床下浸水するなどの被害が深刻化しており、調整池の容量不足が懸念されています。

今回はこのようなさまざまな問題を工場側に訴えかけました。工場側としても、それぞれ個々の問題に対してどのように対応していくかを検討しますということで、今後どこまで問題が改善されるか、見守っていきたいと思っております。

そこで、生活福祉部長にお尋ねをいたします。

現在、町としてこのような意見や要望はどれくらい把握されていますでしょうか。また、それらの意見や要望に対して、具体的な対応はどのようになされていますでしょうか。よろしく願いいたします。

議長（南部 武司君） 岩田利弘生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 近藤敏彦議員の東洋ゴム工業周辺の環境対策についてのご質問にお答えいたします。

東洋ゴム工業周辺の環境対策につきましては、日東タイヤが経営を行っておりました昭和49年当時から、工場周辺の環境対策のため、大気汚染の防止、水質汚濁の防止、粉じん、騒音、振動、臭気等、公害防止に関する協定書を町と締結し、現在に至っております。

平成8年度からは、さらに環境を重視した環境基本法と廃棄物の処理及び清掃に関する法律の改正により、報告書の提出を事業者に義務づけ提出を求めています。

現在のところ、報告書にはどれも基準値を超える数値はございませんし、役場への苦情の報告もございません。

去る5月8日に中上構造改善センターで、中上、長深自治会、四日市市北山町自治会の方々と東洋ゴム工業、四日市市、東員町の懇談会が開催されました。

周辺自治会から、工場の騒音や悪臭、通勤時の自家用車の騒音、通学時の安全確保などなどの要望がなされました。東洋ゴム工業としても、できることから順次

対応していくと聞いております。

町への要望といたしましては、中上自治会から町の環境測定場所の変更を求められており、検討した結果、測定条件の大幅な変更にならないことから、場所の変更は可能と判断しております。

長深自治会からは、長深地内で環境測定を行ってほしいとの要望をいただき、協議したところ、東洋ゴム工業に実施していただくことにご同意いただきました。

今後も東洋ゴム工業、地元自治会と十分協議しながら、周辺地域の環境対策を行ってまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

議長（南部 武司君） 近藤敏彦議員。

2番（近藤 敏彦君） ご答弁ありがとうございます。

町としましても、いろいろな対策をなさっているということで安心をしております。

具体的に工場側でも自主的に環境測定等は実施していただいているようですが、東員町としまして、先ほどもありました中上地区の測定場所の件だとか、長深地区の測定場所等、これは環境測定の中でもいろいろな種類があると思われそうですが、何に対しての測定をなさっているのか、その種類がわかれば教えていただきたいと思えます。

よろしくお願い致します。

議長（南部 武司君） 岩田利弘生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） お答えさせていただきます。

工場周辺ということで、中上の公害対策検査ということで、水質調査としましては三孤子川記念橋付近と員弁川と養父川の合流地点で年4回、おのおの水質調査の検査をしております。

水質の種類でございますけども、ペーハーとかBOD、CODとか、浮遊物質、ヘキサン抽出物質、フェノール類、大腸菌類、溶存酸素、全磷等でございます。

また、大気調査とダイオキシン類につきましては、中上の墓地で行っております。またそれぞれ浮遊粒子状物質とか、二酸化硫黄、一酸化窒素、二酸化窒素、オキシダント、あとダイオキシン類ということで、環境汚水と土壌についての測定をいたしております。

以上でございます。

議長（南部 武司君） 近藤敏彦議員。

2番（近藤 敏彦君） 内容としましてはわかりました。

特に最近の問題で、黒い粉塵に対して悩んでいらっしゃるということが多く聞かれます。先ほども申し上げたとおり、カーボンをどうも扱っているようで、洗濯物が黒く汚れてしまったりだとかという事象が伺われます。

大気の測定の中にはこういった粉塵だとか、そのような測定は入ってますでしょうか。いかがでしょう。

議長（南部 武司君） 岩田利弘生活福祉部長。

生活福祉部長（岩田 利弘君） 大気の中には浮遊粒子状物質というのがございまして、大気中に浮遊している物質ということでございますけども、計量結果としては1時間の最大値が0.032ミリグラム/立方メートルで、1日平均値の最大値が0.014ミリグラム/立方メートルというふうな計測結果になっております。

議長（南部 武司君） 近藤敏彦議員。

2番（近藤 敏彦君） 粉塵に対しても行われているということなんですけども、実際現象としまして、そういったことでお困りの方もいらっしゃいますので、測定結果だけを踏まえてではなくして、人間の見た目、あるいは嗅覚、異常と感じられる場合がありますら、その辺にも目を光らせていただきたいとは思いますが。

環境基準を超えて数値が出たりした場合などは、しっかりと是正を促すような勧告などを行っていただきたいと思っております。

先ほど申しましたように、においの問題などは、人それぞれ感じ方が違ったりしますので、基準値内におさまっているのによしとするなど、単なる数値で見るだけではなくて、実際に困っていらっしゃる方々がおられますので、住民の立場に立って十分な対応をしていただければと思います。

今回は東洋ゴム工業に関しての事案ではありましたが、東員町には数多くの企業様が操業されております。今後の企業誘致など、積極的に押し進めていただくことは、町の活性化につながることでありますし、大いに賛成ではありますけども、今後起こり得るだろうさまざまな問題を克服して、周辺住民の方々をはじめとした自治体と企業とのよい関係を前提とした共存共栄ができれば一番最良かと思っております。それを願っておる次第でございます。

私の質問といたしましては、今回2点質問させていただきました。周辺住民の方が困っていらっしゃる環境の問題、あとは子どもを含めての中学校の移転の問題、できましたら前向きに検討していただきまして、よりよい方向に持っていただければと思います。

時間大変早いですけども、終わらせていただきます。

ありがとうございます。